

東北農政局長賞

未来に咲かす子どもたちの笑顔
～根っこを担うおおたま村づくり(株)の挑戦と責任～

○団体名 おおたま村づくり株式会社（代表取締役 鈴木 誠一）

○所在地 福島県 安達郡 大玉村

○むらづくりの背景・経緯

大玉村は、遊休農地や高齢化の問題が顕著になり、遊休農地の解消と高齢者の生きがいの創出を兼ねた野菜などの生産と、農産物の販売を行うための直売所を平成19年にオープンし、直売会会員数や売り上げを年々伸ばしていた。

その後、直売所に出荷される農産物の種類・量が増加したことで売り場が手狭になったことから、平成29年に村が新直売所の建設を行った。直売所の運営については、会員等が



村づくり株式会社のスタッフ

参加し設置した公設民営化検討委員会で、「村直営での運営では収益活動に限界がある」等の意見から、会員や村民が株主となり「おおたま村づくり株式会社」を設立し、村有施設の産業振興センター（あだたらの里直売所、お食事処たまちゃん、大玉ふれあい広場）及びアットホームおおたま（温泉宿泊保養施設）の管理運営を行うこととなった。

○むらづくりの内容

（1）農業生産面

直売所は、直売会会員の所得向上を目的に地元産品のPR、地産地消の推進、特産品開発など販売面から生産者を支えており、会員数は約260名で、女性が約8割を占めている。直売所のスタッフも女性が多く、女性視点で売り場づくりが行われている。

農産物に対する安心安全の意識向上のため、株式会社の社員がJGAP指導員の資格を取得し、生産者への指導・支援を行っており、また、4名の会員がJGAPの認証取得し「福、笑い」の栽培を行っている。認証農場で生産された米は、直売所で販売するとともに、食事処たまちゃんやアットホームおおたまで、直売会会員が生産する野菜等とともに提供している。

（2）生活・環境整備面

小中学校の農業体験や直売所での職場体験の受入れだけでなく、教員の研修も受入れており、生産者の視察・農業体験を通じて農業の現状や環境に関する取り組みなど、授業に活用できる内容とすることで、農業のやりがいや楽しさを伝えることにつながっている。

また、東京農業大学学生の農業体験の受入れなど、首都圏との交流人口を創出することが、未来の大玉村にかかわる人材を創り出す種まきと捉え、大学の調査研究や研修の受入れを積極的に行っている。



大学生の農業体験受入 中学生の直売所での体験